



第3号 2014年1月号

ひょうたん塾通信

平成 25 年度復興支援の担い手の運営力強化実践事業

主催：ひょうたん塾運営協議会 ひょうたん塾プロジェクト実行委員会
大槌町・東京都 東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）

© 井上ひさし / 山元護久 / ひとみ座 / NEP21 / キャラクターデザイン 片岡昌

飛行機で誤送される最中に脱出し傘でひょうたん島に降り立ち、そのままひょうたん島住民となったマシンガンダンディー。そんなダンディーのストーリーとは：

ダンディーのストーリー

漂流するひょうたん島に、最初にやってきたのは国際警察が護送中だった彼でした。口笛を吹きながら、傘で島に降り立ったダンディーに、サンデー先生と子どもたちは、最初は怪しがり、ギャングと知り、彼に近づこうとはしませんでした。

そんな中、海賊トラヒゲが島にやってきます。ある日、子どもたちはトラヒゲが持ってきた金庫に閉じ込められてしまいます。この金庫を開けられるのは、「マシンガンダンディー」だけ。それが、あのダンディーなのです。付け髭で変装をしていたダンディーは、自分がマシンガンダンディーであることを明かし、子どもたちを救出するのです。

容貌・行動ともにニヒルでクール、でも情に厚い。そして、冷静な判断力を持つダンディーに、住民たちは助けられ、少しずつ心を開き助けられていくのです。その後、ダンディーは元ギャングから、ひょうたん島の保安官になるのです。



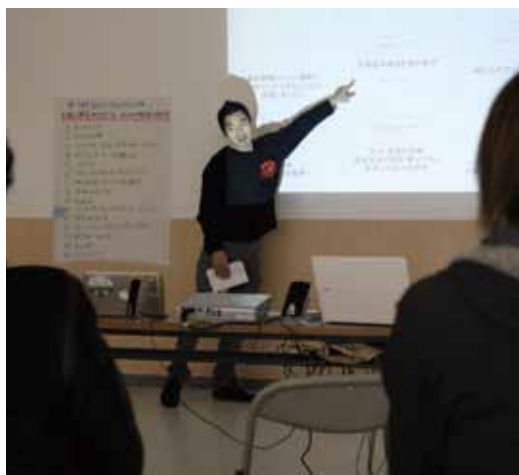
熱い思いをクールに企画提案する秘訣 ダンディー編

大槌と被災地のダンディーから「コンセプトのデザイン」を学ぼう

目的を達成するためには

第3回ひょうこりひょうたん塾は12月15日(日)サイタウナムストにて開催されました。今回はマシンガンダンディーから学ぶコンセプトのデザイン 思いを形にするにはどうしたらいいのか?企画アイディアがうまく伝わらない、それらをカッコ良く冷静な判断力を持つ「ダンディー」を参考として塾の開催となりました。

ダンディーをモデルとしたコメントディターにはLIGHT UP NIPPONを立ち上げた経緯や現実には花火を打ち上げるまでの具体的な行動などを話してくださいました。被災地に自分達で出来ることを考え、皆が喜んでくれる事、日本人は花火が好きであること、花火の特徴を調べると「鎮魂」の意味があることが分かり花火を上げることを決意しました。共感する仲間と、まずはできることから始め、花火の募金を募りました。しかし、イチサラーマンでは信用や思いを伝えることの不足を体感しました。



そこで、地元の方々の協力を得ながら、「思いを形にしていきました。」

<http://lightupnippon.jp/>

そこで目的を達成するにはモチベーション、基本コンセプト、ターゲット、話題化が重要とのことでした。

次に三陸ひょうこり自然学校代表理事の伊藤聡さんの活動が紹介されました。一緒に活動をしていく体験型の活動を通じて、お互いの思いを共感していく仕組みを作っていました。それを形として、様々な活動につなげていました。具体例に「にわか漁師」プロジェクトなど紹介してくれました。

<http://www.fukko-todai.com/santsuna/>

浪板プロジェクトへの思い

第2部では、浪板地区で新しいプロジェクトを展開しようと考えているメンバーの一人、田中正道さんがこれからの事業計画を発表しました。主な内容は次の通りです。

・ターゲット、対象 町外の人、町民、内陸の人

・モチベーション 場所の提供者がいる、浪板の地域の人たちと協力して作る、歴史を活かした地域づくり、皇居の花であるはまぎくを取り入れる

・サービス 飲食店、フットサル場

・商品、商店の環境 海の駅

・中心メンバーの思い みんなでまとまって商売がしたい

・商店街内の環境 かさ上げ工事などで飲食店などが経営出来ない状況、いち早く始められる場所が浪板

・立地条件 サーフインが出来ると片寄波、風景と人がすばらしい、塩田だった、鯨山からの景色、初日の出を拝むスポット、不動の滝

これらの内容をふまえ、2グループに分かれ、浪板をどのように昇っていくかアイデアを出し合いました。各グループが事業のコンセプトを表現していくために、キャッチコピーやそのイメージカラーを話し合いました。イメージカラーを決め

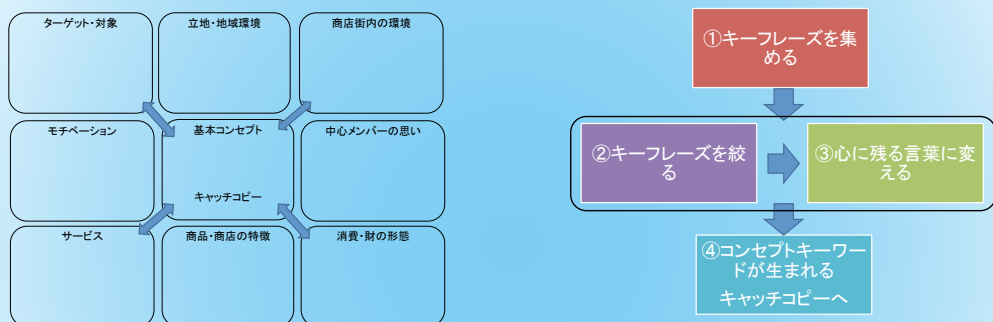
る際は、何となくではなく、なぜこの色なのか説明出来ることが大切です。

各グループの発表より浪板の基本コンセプトは、エネルギーの集まる場所、若返りの場所、癒しの場所、交流の場所、交通のジャンクション、若者のたまり場、等が出され、キャッチコピーも浪板をイメージした多くの案が出されました。イメージカラーはエネルギーを感じさせるもの、マリンスポーツをイメージしたものなどが選ばれていました。高田さんのアイデアは「NAMIITA」ナミィタというイタリア風の響きを持つネーミングもしていただき、今後ますます浪板に新しい風を巻き起こす期待が高まります。(新しい浪板のイメージは左ページ参照)



浪板から大槌を盛り上げる、そのコンセプトをデザイン *^^*

コンセプトのデザインの考え方



キャッチコピー、キーワードづくりのコツ

- ①地域やその現場を感じられる・イメージできる言葉を使う。
- ②擬人化し、名前をキャラクター化する。
- ③不思議・ミスマッチ・意外な言葉を活用する。
- ④温故知新・ことわざや偉人の言葉で語る。
- ⑤共感や五感、期待感にこたえる言葉を使う。
- ⑥現地を訪問した素朴な感想から言葉を探す。
- ⑦異なる分野の言葉を使い、イメージを発展。
- ⑧言葉の音、繰り返しを活用する。



大槌のダンディー
関谷 徳寛さん

浪板に、飲食店やフットサルが出来ると遊び場を作り、人が集まる場所にしたい。



今回のスピーカー
田中 正道さん

お二人のお話をもとに塾生が考えた浪板の基本コンセプトとキャッチコピー

- 基本コンセプト
- 活力や元気が出る場 ●癒 ●そこに行けば会える、出来る ●スポーツ交流
 - 人、音楽、食事 ●エネルギーの集まる場所 ●交流のジャンクション ●若者のたまり場 ●若返り など

キャッチコピー

- ここにこピットイン浪板 ●浜風リラクゼーション ●七つ波 人と自然のジャンクション ●海、山、滝のトライアングル ●太平洋のパワーあつまる未来スポット 浪板



【コラム】

私たちの自慢、大槌の自慢

震災後からこれまで、仕事を通してではあるが、フアインダー越しに大槌の郷土芸能を見ることが多くなった。これまで見ていた郷土芸能の世界の、もう少し奥をのぞかせてもらったような気持ちでいる。言葉では伝えることのできない、ふるさとへの熱い思いや愛情を、芸能という形で現し、伝えていくのだと感じている。

毎年9月には、大槌祭りが行われ、待つてましたとばかりに人が集まる・・・というよりも、溢れる。祭りが好き。そう思っている人は、本当に多い。でも、その気持ちだけで、受け継がれてきたものではないと感じる瞬間がある。多世代の人々が、伝統を守っていくと必死に、芸を磨くことに精を出す。脈々と受け継がれた文化が染みつき、当たり前前に大事なものになる。その土地に生まれたことへの感謝や喜びが、いつしか誇りに変わる。それが郷土芸能の魅力であると感じるようになった。

多世代が集まり、本気で守り抜き、伝えていく。この文化を、ずっと守り、伝えてほしいと切に願う。そして、6月には大槌に来て、町民の溢れんばかりの郷土愛を感じていただけたらと思う。

大槌の魅力のひとつ、郷土芸能。私たちの自慢。大槌の自慢。

一兜 育恵

「ひょっこりひょうたん島サミット」

ひょうたん島の
繋がりから
大槌を元気に！

2014 年
2月16日(日)
開催！！

東日本大震災より3年目を迎える今、震災にも屈せず前に進んでいる大槌と、ひょっこりひょうたん島の歌詞のフレーズのように、共に未来へ向けて動いだししていく姿を重ね合わせることができます。多くの支援に感謝を伝えるとともに、全国よりひょうたん島にゆかりある地域の方を招へいし、共に地域の魅力と元気を発信していくサミットの開催です。

時間：10時～14時

場所：城山体育館

参加費無料 どなたでも参加出来ます！！

第一回全国ひょうたん島サミット：「ひょうたん島」に関係を持つ島の関係者が、全国より集まり、「町の元気の秘訣・まちづくり」について話します。

- ・「ひょっこりひょうたん島を知ろう」コーナー（展示）
- ・我がひょうたん自慢ブース展示、各地域の物産お土産の出店
- ・ひょうたん島特別出店「トヨタブース」
- ・わがまちのドンガバチョ宣言（町の復興計画提案の展示）

【事務局日記】

町の風景が時間の経過と共に変化しています。大槌らしい風景やお気に入りの場所はどこでしょう。記憶の中にある日常の風景、思い出などもその一つになるのではないのでしょうか。また、大槌を訪れた人たちを案内したい場所、紹介したいものなど「大槌の魅力・自慢」を改めて考えることにしました。

海今回の塾では、大槌の観光地として知られる「浪板」地区が題材となりました。波板の言われや、襖などの行事や昔の様子などを聞くことができました。最近では、

サーフィンをする若者があつまるスポットになっている。など、地元の魅力を活用するには、地元の素材をいかに表現し、伝える方法を工夫していく事がポイントになると思います。海と山の豊かな自然を育んでいる大槌が宝の宝庫に見え、これからの可能性を感じます。

大槌の魅力を活用する事業がこれから増えていくことでしょう。塾特別ゲストダンディーのように、クールに時には熱く！！町の魅力や力を引き出すような活動を大切にしていきたいです。

一元持幸子



【ひょっこりひょうたん塾 事務局】

Eメール：hyoutanjuku@gmail.com

電話：090-6229-4621

HP: <http://hyoutanjuku.jimbo.com/>

FB: <https://www.facebook.com/hyoutanjuku>

詳しいレポートやスケジュールなど、随時更新中！！